

# CRS データベース テーブルのエクスポート - Microsoft SQL 2000 Server

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[CRS テーブルのテキスト ファイルへのエクスポート](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Cisco Unified Contact Center Express 環境内で Cisco Customer Response Solutions ( CRS ) データベース テーブルをテキスト ファイルにエクスポートする方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントの読者は次のトピックについて理解する必要があります。

- Cisco CRS
- Cisco CallManager
- Microsoft SQL

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco CRS バージョン 3.x
- Cisco CallManager 3.x
- Microsoft SQL 2000 Server

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 ( デフォルト ) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 背景説明

CRS に関連するデータベースとして、db\_cra と db\_cra\_ccdr の 2 つのデータベースがあります。これらのデータベースには、次のようなテーブルが含まれています。

- AgentConnectionDetail
- AgentStateDetail
- アプリケーションの
- ContactRoutingDetail
- ContactServiceQueue
- CRSProperties
- DataSynchFlag
- DBInfo
- debugflag
- dgeb\_bin\_wfnuance
- dgdb\_src\_wfnuance
- dgdb\_timestamp\_wfnuance
- HistoricalUsers
- ProductInfo
- ProfileIDMapping
- PurgeConfig
- RemoteDBAddress
- Resource
- ResourceGroup
- ResourceSkillMapping
- RtCSQsSummary
- RtICDStatistics
- Skill
- SkillGroup
- sqllogging
- WorkflowTask

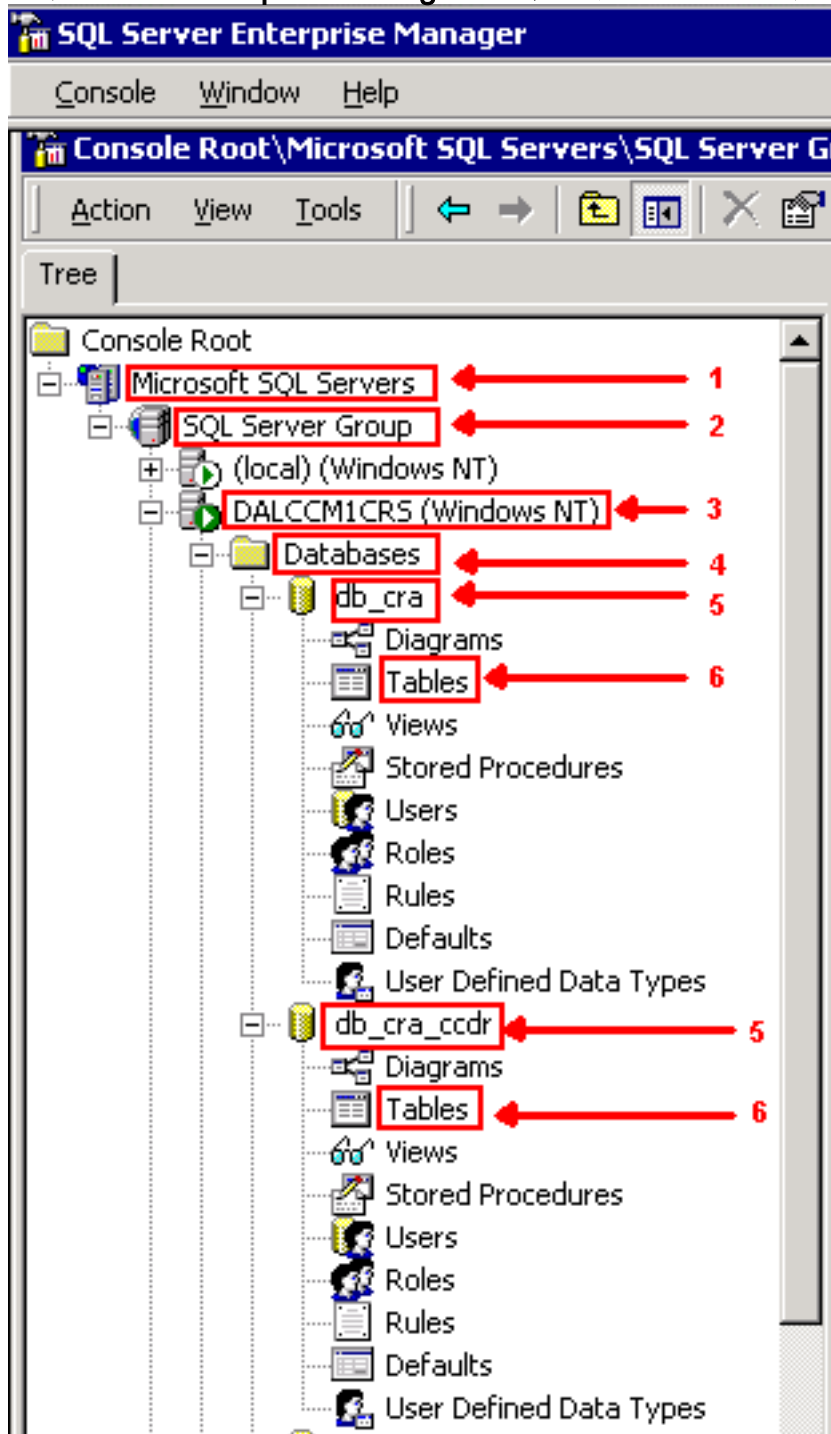
db\_cra\_ccdr には ContactCallDetail などのテーブルが含まれています。

## CRS テーブルのテキスト ファイルへのエクスポート

CRS データベース形式の中で最小限の共通形式はフラット ファイルです。テキスト ファイル形式、Excel スプレッドシート形式、または Microsoft SQL Server 2000 でサポートされているその他の形式のファイルにデータをエクスポートする必要があります。CRS テーブルをテキスト ファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. [Start] > [Programs] > [Microsoft SQL Server] > [Enterprise Manager] を選択して SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. CRS データベースが格納されているサーバに接続します。

3. 図 1 に示すように、左側のペインで db\_cra および db\_cra\_ccdr のテーブルレベルに移動し、[+] をクリックします。図 1 の数字は、ナビゲーションパスの順序を示します。図 1: SQL Server Enterprise Manager --- ナビゲーションパス



4. 右側のペインでテーブル名を右クリックします。
5. 図 2 に示すように、メニューから [All Tasks] > [Export Data] を選択します。図 2: エクスポートするテーブルの選択

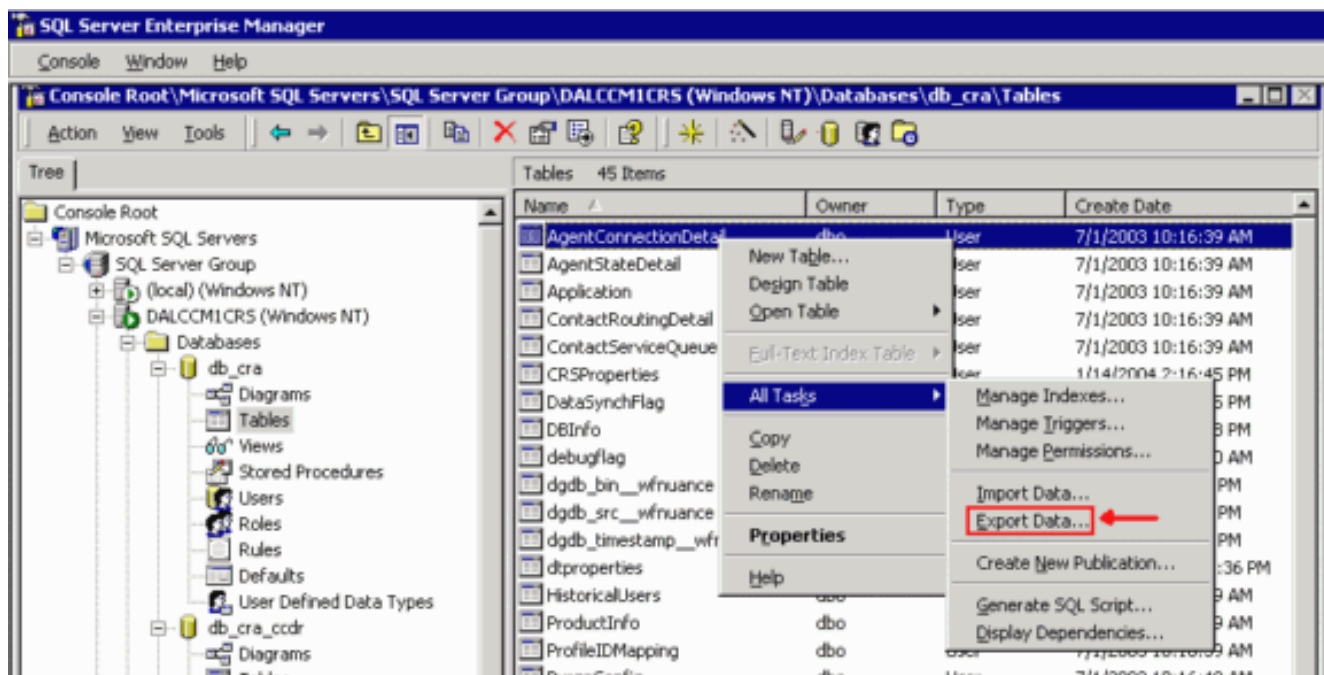
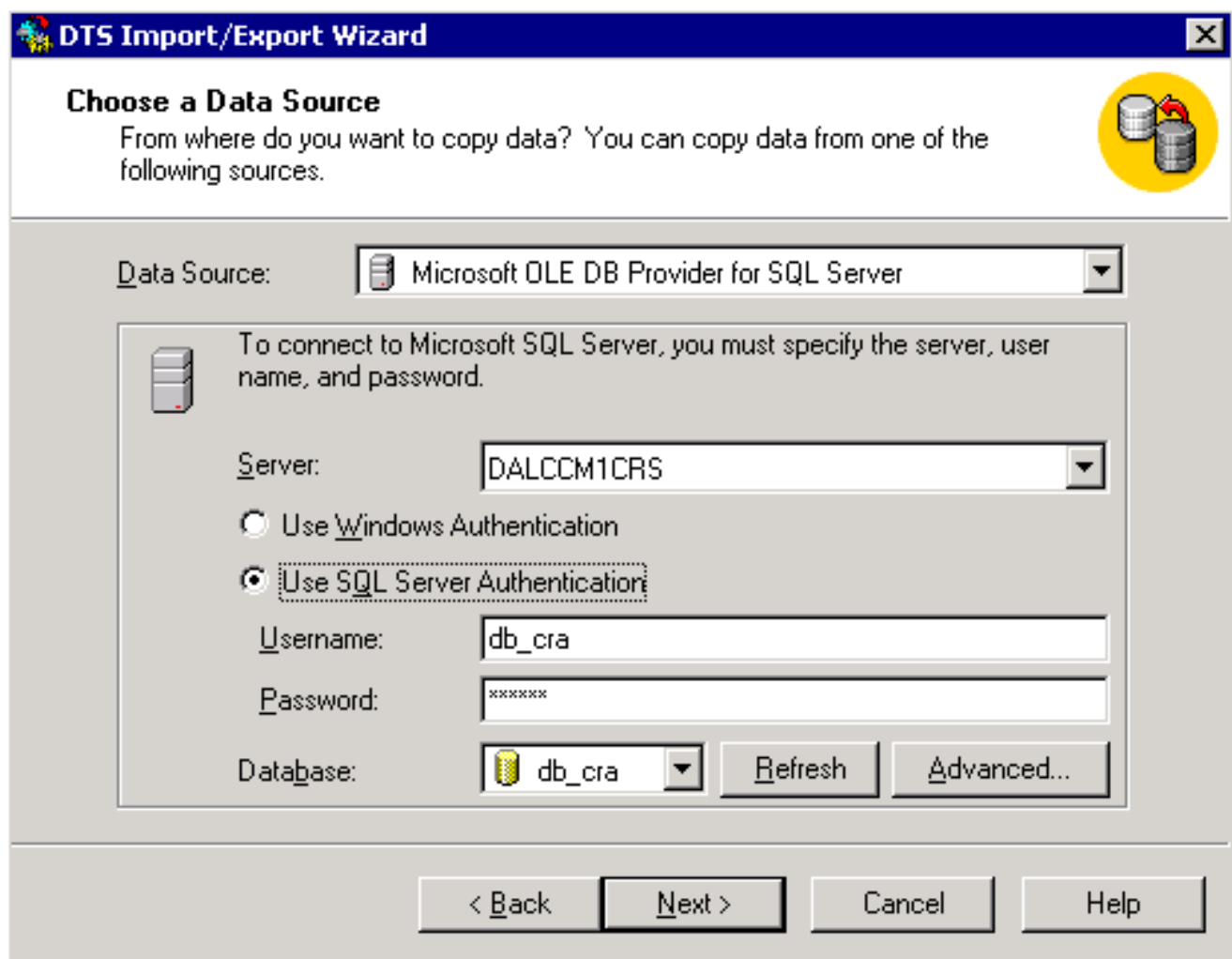


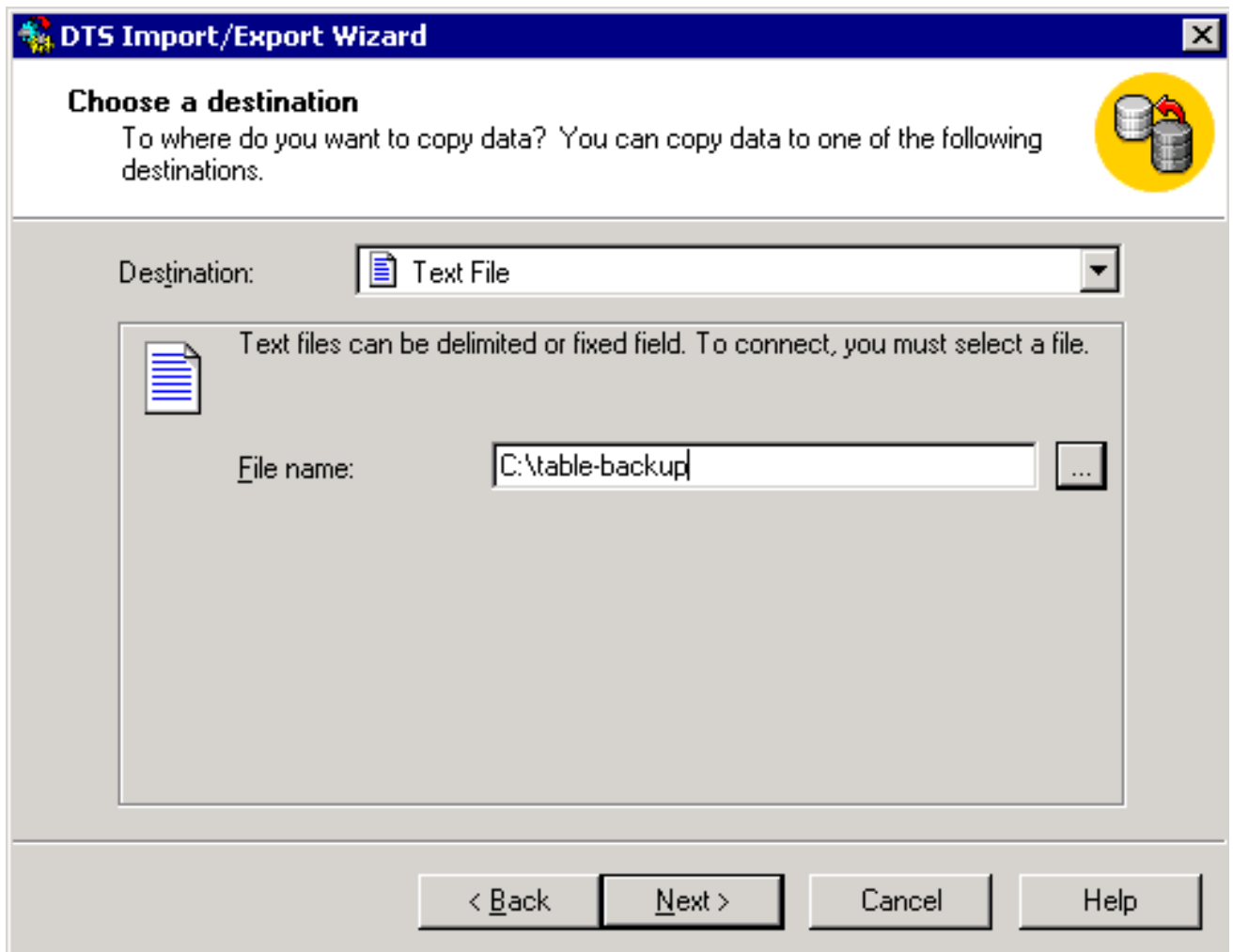
図 3 に示すように、[DTS Import/Export Wizard] 画面が表示されます。図 3： [DTS Import/Export Wizard]



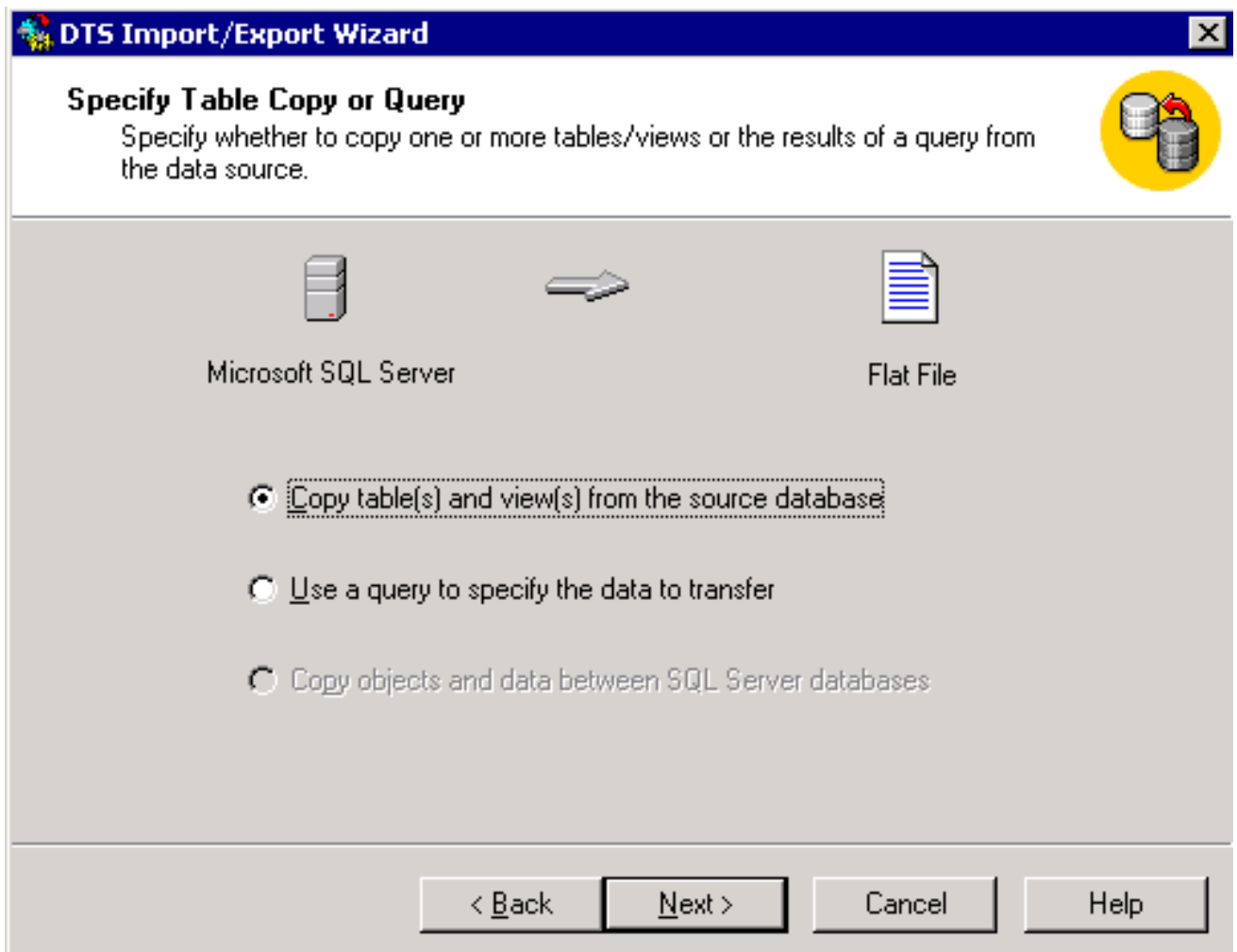
6. [Next] をクリックします。図 4 に示すように、[Choose a Data Source] 画面が表示されます。図 4： [Choose a Data Source]



7. [Use SQL Server Authentication] オプション ボタンをクリックして選択します。
8. ユーザ名とパスワードを入力します。
9. [Database] フィールドの下向き矢印をクリックして、使用するデータベースを選択します。
10. [Next] をクリックします。 [図 5](#) に示すように、[Choose a Destination] 画面が表示されます。  
。 [図 5](#) : [Choose a Destination]



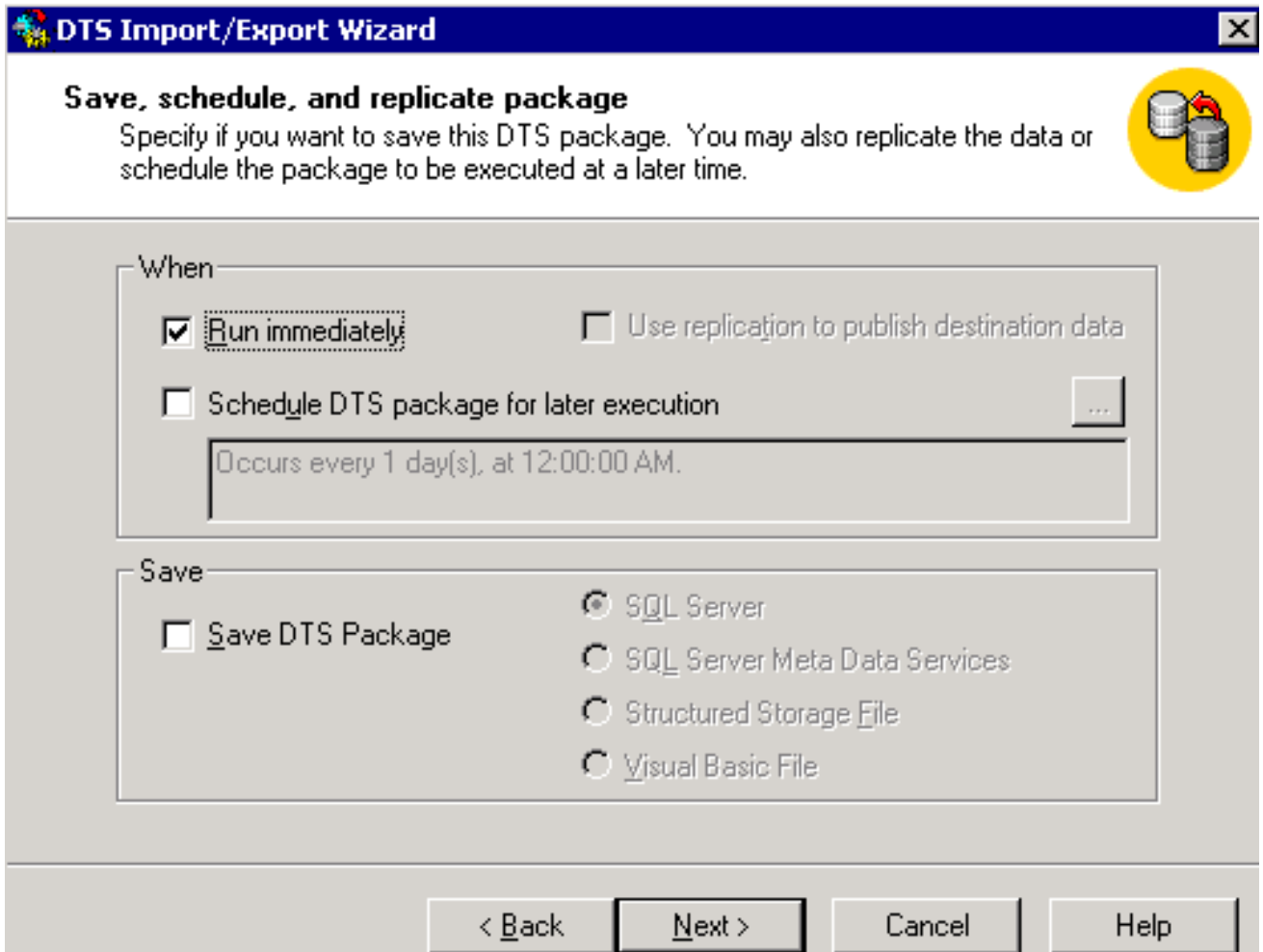
11. [Destination] フィールドで、データのエクスポート形式を選択します。
12. [File name] を入力します。
13. [Next] をクリックします。 [図 6](#) に示すように、[Specify Table Copy or Query] 画面が表示されます。 [図 6](#) : [Specify Table Copy or Query]



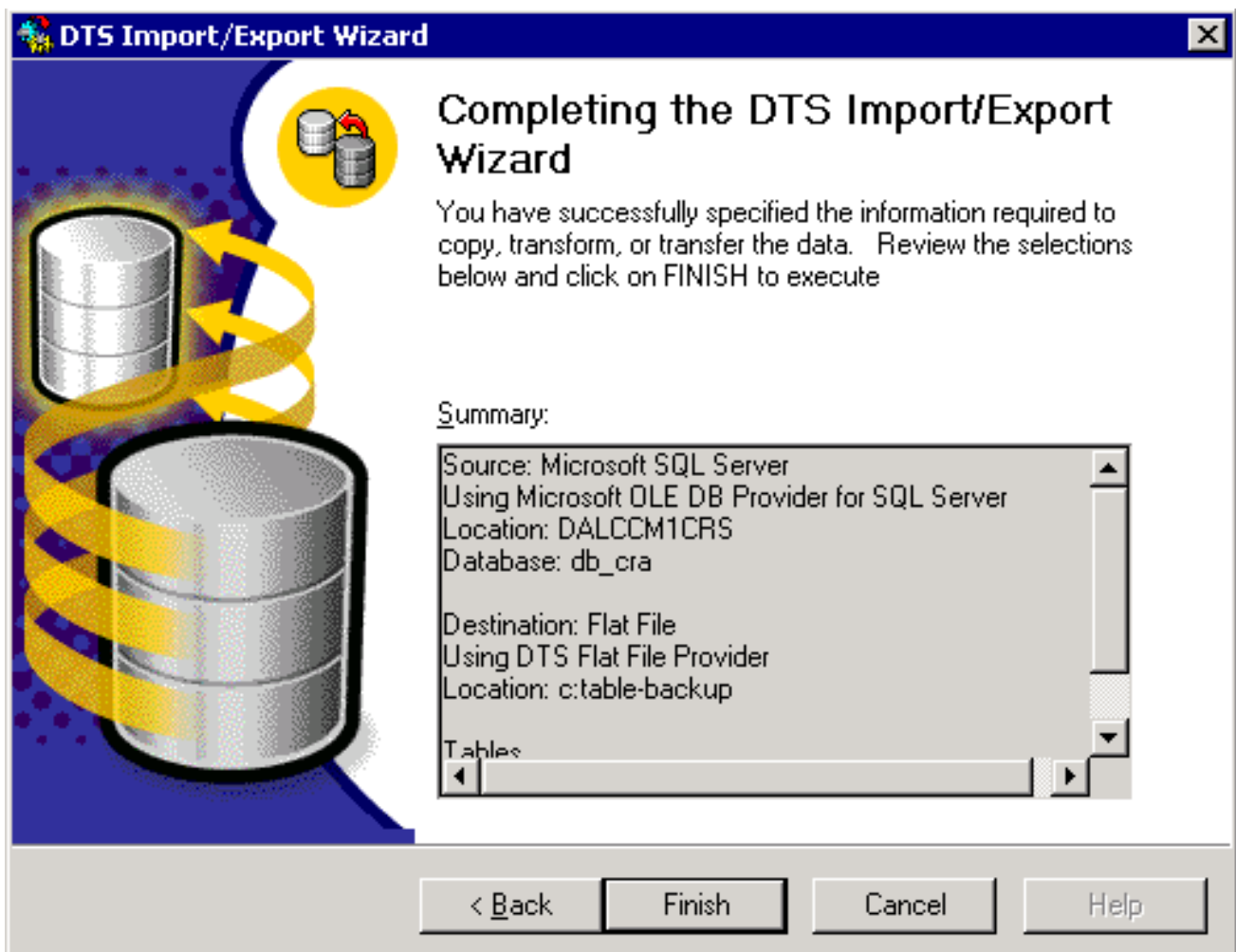
14. [Copy table(s) and view(s) from the source database] オプション ボタンをクリックして選択します。
15. [Next] をクリックします。 [図 7](#) に示すように、[Select Destination File Format] 画面が表示されます。 [図 7](#) : [Select Destination File Format]

16. エクスポートするテーブルを選択して、[Source] フィールドの下向き矢印をクリックします。
17. 形式 ( [delimited] または [fixed] ) をクリックして選択します。注: デフォルトでは、区切り形式 ( delimited ) のファイルが作成されます。このファイルではフィールドがカンマで区切られ、フィールドが二重引用符で囲まれ、行の区切り文字として改行復帰文字が使用されます。
18. [Next] をクリックします。 [図 8](#) に示すように、[Save, schedule, and replicate package] 画面が表示されます。 **図 8 : [Save, Schedule, and Replicate Package]**

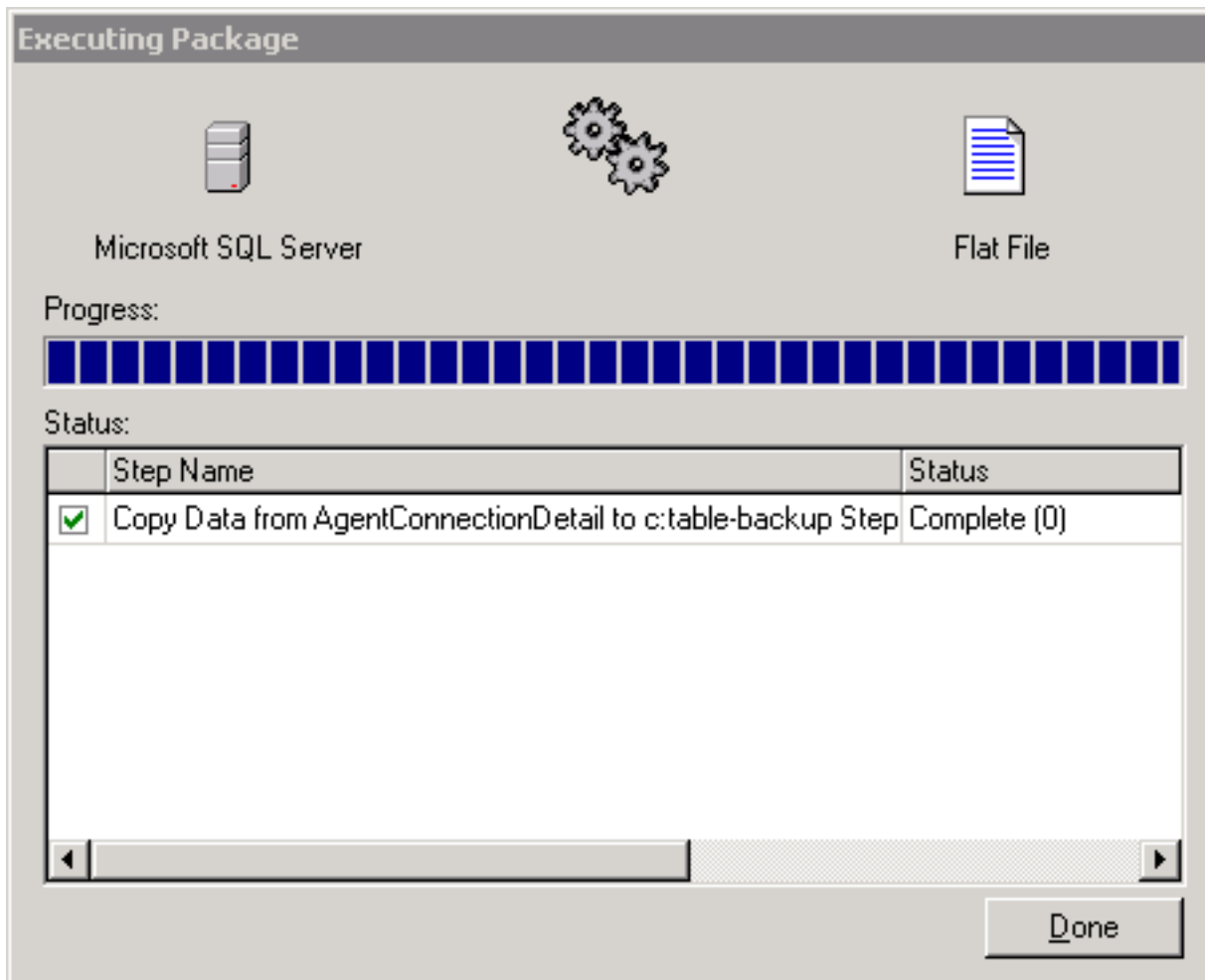




19. この画面では、[Run immediately] と [Schedule DTS package for later execution] のいずれかを選択します。この場合は [Run immediately] を選択します。
20. [Next] をクリックします。[Completing the DTS Import/Export Wizard] 画面が表示されます。  
。 図 9 : [Completing the DTS Import/Export Wizard]



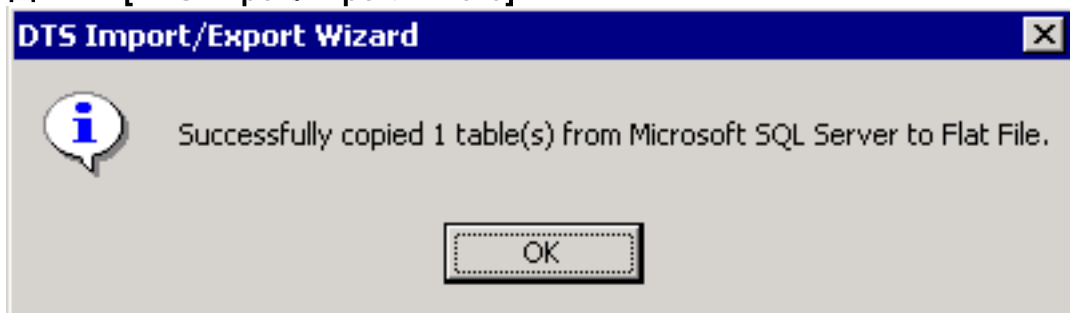
21. **[Finish]** をクリックします。[Summary] セクションに、これまでのステップでの選択項目の概要が表示されます。
22. **[Next]** をクリックします。 [図 10](#) に示すように、[Executing Package] 画面が表示され、ファイルが書き込まれます。 [図 10](#) : [Executing Package]



23. タスクが正常に完了すると、次のメッセージが表示されます。

Successfully copied 1 table(s) from Microsoft SQL Server to Flat File.

図 11 : [DTS Import/Export Wizard]



宛先の OLE DB ドライバまたは ODBC ドライバが存在している限り、SQL Server のデータは任意の形式でエクスポートできます。

## 関連情報

- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)